

事務局を開設しました！

茨城県三の丸庁舎(旧県庁)の県立図書館側階に、私たち水戸藩開藩四百年記念『桜田門外ノ変』映画化支援の会の事務局が開設されました。

事務局の内部は、事務スペース、会議スペース、展示スペース、ソファアールとなっていて、狭いながらもひと通りの機能が果たせる活動拠点となっています。事務局では、各イベントの案内・告知・受付、またホームページの運営などを行っています。毎週土曜日の夜には、事務局スタッフによるミーティングも行っています。映画化が具体化し始めると、これらに加えて製作に関わる様々なお手伝いもしていくこととなります。事務局の電話番号は029-303-0310。局番「303」は「桜田門外ノ変」が起った日である3月3日から。番号「0310」は「水戸」の語呂合わせです。

イベントについてのお問い合わせやお申し込みの際には、お気軽に事務局にお立ち寄り、またはお電話ください。なお、週末の日中のイベント開催時などスタッフが不在の場合がございます。その折は、どうかご容赦願います。

イベントの企画や運営を一緒にしていただけるボランティアの方、どなた様も大歓迎です。私たちとワイワイガヤガヤと楽しく活動してみませんか？ご訪問、ご連絡をお待ちしています。



「歴史講座シリーズ」を「歴史講演会」が始まる



9月21日(日)に常陸太田市市民交流センターで、永井博氏、茨城県立歴史館首席研究員、茨城地方史研究会監事)による「水戸藩の成立」徳川頼房就封400年を前に「」の講演会が、続いて9月27日(土)には、水戸市男女文化センターびよんどで、久野勝弥氏(水戸史学会副会長、元県立学校長)による「大日本史編纂と水戸藩」の講演会が開かれました。

両講演会とも、熱心な受講者で賑わい、活発な質疑応答が行われるなど受講者の意識の高さがうかがわれました。10月からは茨城生物の会の先生方による自然探訪や自然誌講演会のシリーズ、食文化シリーズが始まります。さらに、原作を読んで映画づくりに参加するイベントもスタートしました。今後継続々と開催される講座ほかイベントのお知らせや概要は、随時ホームページでご紹介していきます。



水戸藩開藩四百年記念『桜田門外ノ変』映画化支援の会

かわら版 第二号

水戸藩開藩四百年記念

桜田門外ノ変

映画化支援



キックオフ・シンポジウムを開催

9月7日(木)13時30分より、茨城県立図書館視聴覚ホールにおいて、『桜田門外ノ変』映画化支援の会の本格的な活動のスタートとして、キックオフ・シンポジウム「『桜田門外ノ変』の映画化と地域活性化」を開催しました。

講師として、地域活性プロデューサーで雑誌「ロケーション・ジャパン」の発行人でもある藤崎慎一氏をお招きし、「映画づくりと地域活性化への期待」と題する基調講演をいただきました。

講演では、愛知県豊橋市が市制百年を記念して製作した映画『早咲きの花』や、静岡県浜松市の映画『天まであがれ』にかかわる「浜名湖えんため」環浜名湖の観光振興を考える会の事例などが紹介されました。いずれの町でも、地元市民が様々な形で映画製作を支え、かつそれを楽しんでいました。また、全国的なヒットにはならなかったものの地元では24週にも渡ってロングランとなるなど、これらは地域に根ざした映画づくりと、それをきっかけにしたひとづくりやまちづくりの成功例と言えるでしょう。

関わった市民らは、地域で多くの人たちと出合い、共に地元を見つめ直すことで、地域への愛着や誇りを育んでいったようです。そして、様々な部会活動が展開され、現在も継続されているそうです。例えば、新しい観光ルートが生み出されたり、そのマップが作られたり、ホームページを通じて地域情報の発信がなされたりなど、市民の主体的な参加によるまちづくりが熱心に行われています。このような、全国各地での撮影受入れやロケの活用についての事例を交えながらの講演は、学ぶところが多く、大いに参考になりました。

情報満載のホームページをご覧ください！

私たち支援の会のホームページをご紹介します。

【mitoppo.jp】アドレスのドメインは「mitoppo.jp」。水戸っぽ・ドット・ジェイピー。茨城県人の気質を表すとも言われる「水戸っぽ」。私たちは、映画づくりに係わる活動を通じて、「水戸っぽ」ってなんだね！と言われたい。そんなことも私たちの活動のもう一つの目標です。そんな思いも込めつつ、わかりやすく覚えやすいアドレスにしました。

【トップページ】トップページからは、①支援の会の概要②映画づくりについて、③イベント情報④活動報告の四つへ。もちろん新着情報もこちらです。

【②映画づくりについて】映画化に向けた企画内容、企画意図、物語の登場人物やストーリーなどを紹介。今後映画づくりの具体化に合わせて、新しい情報をどんどん掲載していく予定です。

【③企画・イベントのご案内】当会が主催する講演会やイベントのご案内します。イベントの内容や、参加申込み方法についてもご案内していきます。

【④活動の報告】開催した講演会やイベントについてのレポートを掲載しています。ホームページの情報は、常に新鮮さを維持するよう毎日更新していきます。どうぞ「mitoppo.jp」へアクセスしてください。そして、「mitoppo.jp」をじゃんじゃん活用し、《mitoppo.jp》を大いに育ててください。

慣れないスタッフによる手作りのホームページのため、見づらく箇所があるうかと思われまます。お気づきの点がございましたら、事務局までご一報願います。

ロゴマークが決まりました！

9月27日(土)の16時より、『桜田門外ノ変』映画化支援の会事務局(三の丸庁舎)にて、ロゴマークの選考委員会を開催しました。

8月26日から9月25日までの「支援の会」のロゴマーク募集について、北は青森から南は沖縄まで、全国から103点もの作品の応募がありました。

委員長に水戸藩開藩四百年記念『桜田門外ノ変』映画化支援の会の狩野安全会長。委員には、茨城文化団体連合会の人見實徳会長(茨城県立歴史館館長)、茨城県観光物産協会の中山義雄副会長(水戸観光協会会長)、財団法人水府明徳会総務管理部総務管理課の脇伸哉秘書都合により欠席、茨城県商工労働部観光物産課の鈴木章一郎課長(代理として橋川栄作氏)の皆様にお願しました。

委員の方々からのご提案で、選考会には事務局スタッフも加わり、投票によって優秀作品6点が選ばれました。その後、水府明徳会の脇伸哉氏を通じて水戸徳川家第十五代当主、徳川斉正氏のご意見も踏まえ、六点の中の一点を最優秀賞といたしました。

幕末日本に大きな転機をもたらした『桜田門外ノ変』の意義が表現され、また、小説『桜田門外ノ変』の映画化への取り組みと、地域の活性化に大きなうねりを創出する「支援の会」の活動がダイナミックに表現された、躍動感あふれるデザインです。作者は、神奈川県川崎市にお住まいのグラフィックデザイナー・望月勇氏。

なお、事務局からの特別賞として、さらに四作品を選定しました。表彰式は、12月を予定しています。



決定したロゴマーク

映画の原作『桜田門外ノ変』はどんな作品なのか!?

あらためて、私たちが映画化を支援している原作『桜田門外ノ変』(新潮文庫)についてご紹介いたします。

物語の主人公は、水戸藩の下級武士として生まれた関鉄之介。黒船来航、将軍継嗣問題、日米修好通商条約、戊午の密勅、安政の大獄…。揺れ動く時代の波を受けながら、国を憂い、国を想う水戸藩士たち。次々と難題が押し寄せ、水戸藩を源にした尊王攘夷思想は、ついに時の大老・井伊直弼の斬奸にいたります。事変後、鉄之介ら生き延びた者たちは京へ向かい、薩摩藩とともに朝廷を守護するはずでしたが、計画は頓挫します。仲間たちは次々と捕えられ、鉄之介自身も追われる身となり、逃亡生活を続けていきます。以上が小説のあらすじです。

小説『桜田門外ノ変』は、吉村昭氏が昭和の終わりから平成元年8月にかけて、茨城新聞をはじめとする地方新聞各紙に連載された小説に加筆改稿し、平成2年に出版されたものです。全編五二二ページにわたるこの長編力作の原稿の全てが、茨城新聞社に寄贈され、現在は茨城県立図書館が所蔵しています。

吉村氏は、「桜田門外ノ変」に興味を持ち、「この事件を説明するには襲った側から描く以外にない」(原作あとがきより)と考えました。主人公を関鉄之介にしたのは、鉄之介の遺した日記が多数あったのと、物語を進めていく上で、「事件すべてにかかわった彼の視点で描くことが正しい」(前出同)と思ったからとのこと。

吉村氏は史実を丁寧に調査・研究し、現地に直接足を運んで取材して、徹底的に調べたそう。そこから得られた確かな内容を元に、「小説」として緻密な構成で書き上げる氏のパワー。読者は、それによって完成された作品に引き込まれ、一気に読み上げてしまいます。

10月4日より上映中、映画『三本木農業高校、馬術部』

『盲目の馬と少女の実話』

この映画は、『桜田門外ノ変』の映画プロデューサーの一人で、キックオフ・シンポジウムのパネリストをお願いした佐藤紳司さんが手がけられた作品で、当支援の会でも応援しています。

――三本木農業高校の馬術部に所属する女子高生、菊池香苗。彼女が世話をするのは視力を失いかけたタカラスモス(通称コスモ)。猜疑心が強く、なかなか懐こうとしないコスモに手を焼きながらも献身的に世話を続ける香苗。やがてコスモは香苗の愛に応えるように心を開き、ふたりは強い絆で結ばれていく――(映画のホームページより)

監督は『半落ち』『チルソクの夏』『出口のない海』『夕凧の街 桜の国』で数々の感動作を世に送り出してきた佐々部清さん。

主演は、新鋭・長渕文音。長渕剛さんと志穂美悦子さんの長女として注目を浴びています。猛練習を重ね、乗馬シーンを全て本人がこなすなど、骨太な演技も注目です。

茨城県内では、T O H O シネマズひたちなかで上映中です。この秋、どうぞ感動の涙を流してください。



※事務局に若干の前売り券(大人千三百円)があります。

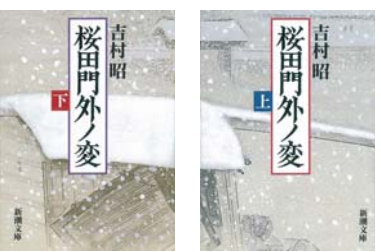
氏が取材を進めていく中で、それまでの定説が間違であったということがいくつもあったようです。その内容は、小説の中ではきちんと描かれています。たとえば、襲撃の日に雪が降っていたのは有名ですが、その雪がやんだ時刻や、鉄之介が逃亡の果てに捕縛された場所などです。

原作を読むことで、「桜田門外ノ変」という史実をより深く知ることができます。そして、幕末と呼ばれる時代に、水戸藩の藩士はじめ領民たち、郷土の先人がどのような思いで、どのように関わっていたのか、日本史の授業だけでは決して知ることのできない事実に触れることができます。

ところで小説『桜田門外ノ変』では、なぜ「ノ」はカタカナなのでしょう? 『史実を歩く』(吉村昭ノ文春文庫)によりますと、当時の記録にはカタカナを使用しているものが多かったからだそうです。

あの動乱の時代。それぞれが真剣に日本行く末を考え、純粋に行動し、駆け抜けていった志士達。さらに、物語に登場する様々な立場や役割をもった先人達。そのようなすべての人々の想いを、私たちがしっかりと胸に刻んでいきたいと思えます。

水戸藩開藩四百年の記念の節目にあたり、「桜田門外ノ変」映画化支援の会の私たちは、これからの活動を、明日の郷土茨城を共に創造していくためのひとつ、まちづくりの大きなうねりとして、より多くの県民の皆様と、一緒に継続してまいりたいと考えています。



【原作】『桜田門外ノ変』
著者 吉村昭
(新潮文庫)
上 540円
下 580円

水戸八景ツーリング

『斉昭公の思いを風に』

水戸藩九代藩主の徳川斉昭公が、天保4年(1833年)に選定した「水戸八景」。そのねらいは、藩内の子弟に八景巡りを勧め、自然観賞と心身の鍛錬を図ることと言われています。支援の会では、その八景を自転車で巡る企画を設けました。

斉昭公の筆による八景の石碑を訪ね、その歴史的背景などにもふれながら、茨城の秋を体感するという初のところみです。当日は茨城県サイクリング協会のご支援で、協会の方々のリードで完走をめざします。およそ100キロのツーリングに、70代のお元氣なシニアの方も挑戦されます。

【日時】10月18日(土)
午前7時県庁集合、8時出発、水戸八景巡回、午後5時頃までに県庁到着予定

- 【コース】
茨城県庁出発、
①仙湖雪響水戸市常磐町、
②青柳夜雨水戸市青柳町、
③山寺晚鐘常陸太田市稲木、
④太田落雁常陸太田市栄町、
⑤村松晴嵐東海村村松、
⑥水門帰帆ひたちなか市和田町、
⑦巖船夕照大洗町祝町、
⑧広浦秋月茨城町下石崎、
茨城県庁ゴール

【参加料】
お一人千円(昼食弁当代、飲物代、保険代等)
【申し込み】
10月10日(金)までに、支援の会事務局へ電話・FAX・メールにて。



シナリオ・ハンティングが行われました

設立総会を控えた8月5日〜6日にかけて、映画プロデューサーの佐藤紳司氏と若松徹氏、脚本家の江良至氏一行によるシナリオ・ハンティングに、事務局も同行させていただきました。

【初日は、常陸太田、高萩、大子】
水戸駅での待ち合わせ後、常陸太田市の西山荘へ。遠く光園公の思いを馳せながら見学しました。江良氏が、珍しい色のカナヘビに強い関心を示されていたのが印象的でした。

続いて、高萩市内の「水戸徳川家の隠れ家」でも呼ぶべき別荘地へ。山路を登り、どの観光パンフにも紹介されていない秘密の場所と建物に、皆さんは大いに感激されていました。



その後、原作『桜田門外ノ変』の主人公、関鉄之介が逃亡中に滞在した大子町へ。町役場で、田中雄章副町長、鈴木透観光工課課長補佐、郷土史家の小澤園彦さん(前大子町教育委員会教育長)らと、簡単な打ち合わせをしたのち、町内のゆかりの地を回りました。



袋田温泉思い出浪漫館前の道路沿いにある「関鉄之介の歌碑」。逃亡生活中に潜伏先で詠んだといわれる歌が刻まれています。背面は、維新烈士の顕彰に尽力した「幕末と明治の博物館」の建設にも寄与した土佐藩出身の田中光顕翁(伯爵)の鉄之介への深い思いが碑文となっていて、江良氏はこれを熱心に読んでおられました。

次にそこからほど近い所の、鉄之介がたびたび行き来した桜岡家を訪問。彼が作ったという笛と、使用していた硯を拝見しました。

『桜田門外ノ変』の原作を読んで映画づくりに参加しよう!

映画製作の支援活動の一環として、映画づくりが本格的に動き出す前に、原作『桜田門外ノ変』に関する各種「コンクール」を行っています。応募者全員に『桜田門外ノ変』にちなんだ記念品を進呈します。ふるって応募下さい。

1. 『桜田門外ノ変』原作読書感想文コンクール
【募集内容】吉村昭原作『桜田門外ノ変』(新潮文庫)の感想及び映画化に対する期待を原稿用紙(400字詰)2〜3枚で。
【賞】優秀作品を表彰するとともに(副賞有)ホームページ等に掲載。
2. ロケ地推薦コンクール
「『桜田門外ノ変』の原作を読んで勝手にロケハン!コンテスト」
【募集内容】原作を読んで、場面に応じたロケ地に相応しい場所(県内)を推薦して下さい。(ロケ地の名称・地名、所在地、所有管理者、連絡先、どのシーンで用いたいかなを推薦する理由を記載。写真は必須)
【賞】優れたロケハンを表彰(副賞有)、ホームページ等に掲載、映画製作委員会に推薦。
3. 俳優推薦コンクール
「『桜田門外ノ変』の原作を読んで勝手にキャストイン!コンテスト」
【募集内容】原作を読んで、登場人物に相応しい俳優。女優を推薦して下さい。(俳優や女優の名前と役柄、推薦する理由(複数推薦可)を記載)
【賞】優れたキャストインを表彰(副賞有)、ホームページ等に掲載、映画製作委員会に推薦。

続いて袋田の滝を観賞したのち、鉄之介が身を潜めたという大沢穴観音へ。ここは雑木や野草が鬱蒼としていて、今でも誰かが隠れているような雰囲気です。プロデューサーのお二人は興味深く見入っておられました。生瀬の地獄淵を見学後、ホテルへ。夜半には、東京から岡田裕プロデューサーも到着。映画化に向けての当会の思いや、製作サイドの映画界の状況などについて話し合いました。



【二日目は水戸】
翌日、水戸へ向かう途中、桜田烈士の一人である斎藤監物ゆかりの静神社(那珂市)へ。神社から400Mほど南の墓地も訪ねました。

水戸に入ってから、志士たちを祀る回天神社を参拝、回天館の見学後、常盤共有墓地へ。鉄之介はじめ多数の烈士たちの眠るお墓をお参りしました。



続く偕楽園では、表門から入り、中門を抜けて好文亭へ。園を開いた斉昭公の思いを感じながら拝観しました。

最後に訪れた弘道館では、正庁の真正面に掲げられている『尊攘』の大額が、真っ先に目に飛び込んできました。初めての訪問の映画関係者の皆さんは、すっかり圧倒されておられました。

4. この場面でこれ使って!コンクール

第1〜5弾
「映画『桜田門外ノ変』に、あなたの家の『自慢の品』を登場させてみませんか!」
映画製作への支援の一環として、『桜田門外ノ変』の様々な場面・シーンに応じた小道具を推薦するコンクールです。「自分やご家族の思い出の小道具や、とっておきのお宝などこだわりの品が『桜田門外ノ変』の映画に登場するかも知れません。」

- 【募集期間】10月13日(月)〜11月30日(日)
- その1 『桜田門外ノ変』 この場面で「この盆栽」を!
武家や商家の屋敷内の座敷や客間の床の間に、自慢の盆栽を置いてみませんか?
 - その2 『桜田門外ノ変』 この場面で「このぐい呑み」を!
藩士や浪士たちが飲み交わすシーンに、ふさわしい「ぐい呑み」(合わせて徳利も可)を推薦して下さい。
 - その3 『桜田門外ノ変』 この場面で「この掛軸」を!
茶屋や料亭、身分の高い武家の屋敷のシーンで、座敷や茶室などに掲げられる「掛軸」を推薦して下さい。
 - その4 『桜田門外ノ変』 この場面で「この一輪挿し」を!
武家の屋敷、茶屋や料亭や商家などのシーンで、座敷や茶室などに飾られる「一輪挿し」を推薦して下さい。
 - その5 『桜田門外ノ変』 この場面で「この小道具」を!
それぞれのシーンをいっそう効果的に表現する「小道具」(その他なんでも)を推薦して下さい。
5. 映画『桜田門外ノ変』関連情報大募集!
「桜田門外ノ変」のみならず、幕末の水戸藩などに関連するいろいろな情報を募集しています。寄せられたとっておきの情報や話題は、ホームページに掲載していきます。常時募集中!!!